

令和2年度行政事業レビューシート (総務省)

事業名	投票環境の向上等に要する経費			担当部局庁	自治行政局選挙部		作成責任者		
事業開始年度	令和元年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	管理課		課長 清田 浩史		
会計区分	一般会計								
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	公職選挙法 第6章、第150条 政見放送実施規程第8条等			関係する 計画、通知等	投票環境の向上方策等に関する研究会報告				
主要政策・施策	-			主要経費	その他の事項経費				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度 以内)	選挙の公正を確保しつつ、ICTを利用した選挙事務について課題を整理し、有権者が投票しやすい環境を整備することを目的とする。 また、政見放送における手話通訳に必要となる、公職選挙法に関する正確な知識、政治用語の理解、選挙の公平・公正を確保するために統一された手話など通常の手話通訳にはない知識や技術を習得した手話通訳士の必要数確保を目的とする。								
事業概要 (5行程度以 内。別添可)	・タブレット端末などの汎用機を用いた電子投票機による電子投票の改善等について調査研究の実施。 ・研修履修者数の少ない地方都市等の手話通訳士を主な対象として全国各地の主要都市において「政見放送手話通訳士研修会」を開催。								
実施方法	委託・請負								
予算額・ 執行額 (単位:百万円)			平成29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度要求		
	予算 の 状 況	当初予算	0	0	23	23	23		
		補正予算	-	-	-	-			
		前年度から繰越し	-	-	-	-			
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-			
		予備費等	-	-	-	-			
	計		0	0	23	23	23		
	執行額				18.1				
	執行率 (%)		-	-	79%				
	当初予算+補正予算に対する執行額の割合 (%)		-	-	79%				
令和2・3年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	2年度当初予算	3年度要求	主な増減理由					
	庁費	22	22						
	職員旅費	0.4	0.4						
	委員等旅費	0.4	0.4						
	諸謝金	0.2	0.2						
	計	23	23						
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	平成29年度	30年度	令和元年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
	調査研究により整理した課題の数等	調査研究により整理した課題の数等	成果実績	件	-	-	1	-	-
			目標値	件	-	-	1	-	-
			達成度	%	-	-	100	-	-
根拠として用いた 統計・データ名 (出典)	総務省調査								
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	平成29年度	30年度	令和元年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
	政見放送の手話通訳を行うことができる者を100名増加	政見放送手話通訳士研修会の履修者数	成果実績	人	-	-	60	-	-
			目標値	人	-	-	100	100	100
			達成度	%	-	-	60	-	-
根拠として用いた 統計・データ名 (出典)	別事業で平成30年度に実施していた政見放送手話通訳士研究会の履修者数(前年度実績)を元に設定								

活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度活動見込	3年度活動見込
	調査研究報告書の作成	活動実績	百万円	-	-	9.9	-	-
		当初見込み	百万円	-	-	19.6	19.7	-
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度活動見込	3年度活動見込
	政見放送手話通訳士研修会の開催件数	活動実績	回	-	-	4	-	-
		当初見込み	回	-	-	4	4	-
単位当たりコスト	算出根拠		単位	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度活動見込	
	調査研究事業費／調査研究の成果物	単位当たりコスト	百万円	-	-	9.9	19.7	
		計算式	/	-	-	9.9百万円／1式	19.7／1式	
単位当たりコスト	算出根拠		単位	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度活動見込	
	総事業費／政見放送手話通訳士研修会の開催件数	単位当たりコスト	百万円	-	-	0.6	0.6	
		計算式	/	-	-	2.4百万円／4回	2.3百万円／4回	

政策評価、新経済・財政再生計画との関係	政策	Ⅲ. 選挙制度等								
	施策	選挙制度等の適切な運用								
	政策評価	測定指標	定量的指標		単位	平成29年度	30年度	令和元年度	中間目標 - 年度	目標年度 - 年度
				実績値	-	-	-	-	-	-
				目標値	-	-	-	-	-	-
			定性的指標	目標	目標年度	施策の進捗状況(目標)				
						施策の進捗状況(実績)				
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係									
	電子投票の改善等の調査研究を行うとともに、研修履修者数の少ない地方都市等の手話通訳士を主な対象として全国各地の主要都市において「政見放送手話通訳士研修会」を開催し、手話通訳士を確保することで、有権者が投票しやすい環境の整備に寄与する。									
新経済・財政再生計画改革工程表 2019	取組事項	分野:	-	-						
	(第一階層) KPI	KPI (第一階層)		単位	計画開始時 - 年度	元年度	2年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度	
			成果実績	-	-	-	-	-	-	
			目標値	-	-	-	-	-	-	
			達成度	%	-	-	-	-	-	
	(第二階層) KPI	KPI (第二階層)		単位	計画開始時 - 年度	元年度	2年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度	
			成果実績	-	-	-	-	-	-	
		目標値	-	-	-	-	-	-		
		達成度	%	-	-	-	-	-		
本事業の成果と取組事項・KPIとの関係										

事業所管部局による点検・改善

項目		評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	投票環境の向上方策等に関する研究会報告において、ICTの利活用による投票環境向上等の検討を進めることが提言された。 また、障害者差別解消法により「社会的障壁の除去の実施について必要かつ合理的な配慮」が求められており、政見放送における手話が可能な手話通訳士を十分に確保する必要がある。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	選挙の公正を確保することを前提とした更なる有権者の利便性向上のための調査研究であること。 また、参議院選挙区選挙における、政見放送の手話通訳士を十分に確保するための事業であり、国が主体となって行うものである。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	投票環境の向上方策等に関する研究会報告において、ICTの利活用による投票環境向上等の検討を進めることが提言された。 また、障害者差別解消法により「社会的障壁の除去の実施について必要かつ合理的な配慮」が求められており、政見放送における手話が可能な手話通訳士を十分に確保する必要がある。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	本事業のうち、調査研究事業については、総合評価方式による一般競争入札の実施により競争性を確保し、効率的な事務執行に努めた。 稼働テスト及び報告書等作成業務については、現行システムへ改修を前提とした業務であり、システムを熟知し改修業務を行った者である必要があり随意契約を行った。 研修会委託事業については、公募により選定を行った。
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	有	
	競争性のない随意契約となったものはないか。	有	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-	
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	○	
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-		
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	-		
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	調査研究及び研修会の実施が適切に行われた。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	-	
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	調査研究報告書の作成、研修会の実施が適切に行われた。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	-	
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-	
	所管府省名	事業番号	事業名
点検・改善結果	点検結果	投票環境向上に向けた取組を推進していくため、引き続き、効果的な手法を検討する。	
	改善の方向性	調達案件の性質上、随意契約による調達とせざるを得ない案件について随意契約を行ったが、調達案件の内容に応じ、総合評価入札等の競争性のある入札の実施に引き続き務める。	
外部有識者の所見			
事業の重要性に鑑み、より積極的な活動の推進をはかっていただきたい。			
行政事業レビュー推進チームの所見			
一部改善内容	更なる経費の効率化を図り、適正な予算執行に努めること。		

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

現
状
通
り

引き続き効率的な事業の実施及び有権者が投票しやすい環境整備に努めていく。

備考

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成22年度	-	平成23年度	-	平成24年度	-	平成25年度	-
平成26年度	-	平成27年度	-	平成28年度	-	平成29年度	-
平成30年度	-						
平成31年度	総務省 (新31 - 0003)						

※令和元年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

総務省
(23百万円)

有権者が投票しやすい環境を整備するため、ICTの活用による投票環境向上に係る調査研究等を行う。

手話通訳士研修履修者の少ない地方都市等の手話通訳士を主な対象として全国各地の主要都市において「政見放送手話通訳士研修会」を開催する。

研究会で検討された事項のうち、専門的かつ技術的な検証が必要な事項について外部委託。

投開票速報システムの改修に係る稼働テスト及び報告書等作成業務。
(改修費は国民投票制度にかかる投開票速報システム改修に要する経費による)

調査研究事業に伴い必要となった旅費。

手話通訳に関して専門性を有する事業者に「政見放送手話通訳士研修会」の開催を外部委託。

A.民間事業者
(9.9百万円)

B.民間事業者
(5.4百万円)

D.職員
(0.4百万円)

C.一般社団法人
(2.4百万円)

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)

費目・使途
(「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

A.			B.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	調査研究委託	9.9	雑役務費	報告書等作成業務委託	5.4
計		9.9	計		5.4
C.			D.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	研修会の事務委託	2.4	職員旅費	支出額が100万未満の者である。	0.4
計		2.4	計		0.4

費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載

チェック

